

児童・生徒の現状・課題

学習への興味関心は高く、課題に意欲的に取り組むことができる。一方で、自分ができるできないことを理解し、改善のためにどのように学ばよいか考え、継続的に努力する姿勢が身に付いていない児童が多い。



学び続ける力を育むための重点目標

○子どもたちが、自分自身の学習の習得状況を理解し、自己調整しながら粘り強く取り組むことができるようにする。



※肯定的回答の割合(%)

児童生徒調査	昨年度	目標(8月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	83.0	85.0	
②問題や課題に取り組んでも上手くいかない時には上手くいくように違うやり方を試したり粘り強く取り組んだりしている。	86.0	90.0	

教員調査	昨年度	目標(8月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	67.0	80.0	
②児童生徒が自分で計画を立てて学習をすすめる力を育むため、授業や家庭学習等において、手立てを講じたり、指導したりしている	81.0	85.0	

具体的な手だて①

毎授業、前時までの学習内容を振り返る時間を設けることで、学習の見通しをもち、主体的に取り組めるようにする。

具体的な手だて②

授業内外で様々な「選択」を意識させる。そのために、平素の授業において「選択肢の6つの視点」を常に意識して授業作りを行う。

具体的な手だて③

キュビナを活用したり、定着度確認テストを定期的に行ったりすることで、自身の基礎的・基本的な知識及び技能の習得状況を見通し、自己調整しながら粘り強く努力を重ねられるようにする。



校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

- ・本校の研究と関連付け、南一算数スタンダードを意識しながら「自分をみつめる力」を高められるようにする。
- ・授業観察では、授業改革の視点を意識し、お互いの授業を見合えるように呼びかける。
- ・授業改革推進プランや授業改革が書かれた紙を週案に挟むことで、常に意識できるようにする。

総括(8月)

全国学力・学習状況調査の結果を見ると、無回答率は昨年度より大幅に減少しており、最後まで粘り強く取り組もうとする姿勢が高まっている。一方で、平均正答率はどの教科においても平均を下回っている様子を見ると、自分に合った学習方法を選択し、適切に努力を重ねていく姿勢はまだ十分身に付いておらず、各教科における基礎的・基本的な知識及び技能も十分に身に付いていない。そこで、日常の授業において自分を見つめ自己調整したり、自身で選択する等主体的に学習したりできるよう手立てを設定し、実行していくことを授業改革の芯に据えた。

総括(1月)